

令和6年度 香川県立文書館企画展示を開催します。

香川県立文書館開館30周年記念事業

北海道・瀬戸内海と小西^{こにし}和^{かなう}

瀬戸内海国立公園は、昭和9年（1934年）3月16日に日本で最初の国立公園の一つとして国の指定を受け、今年には90年の節目の年を迎えました。

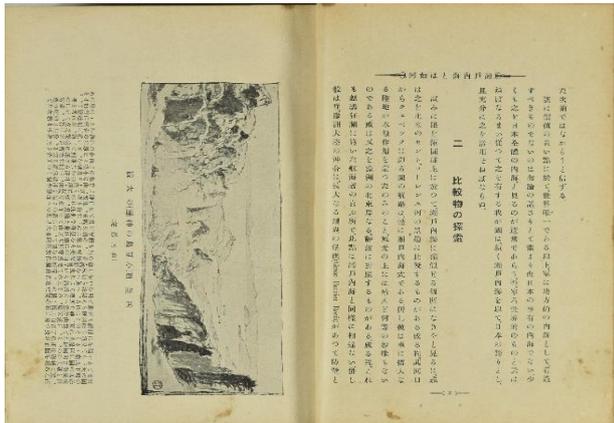
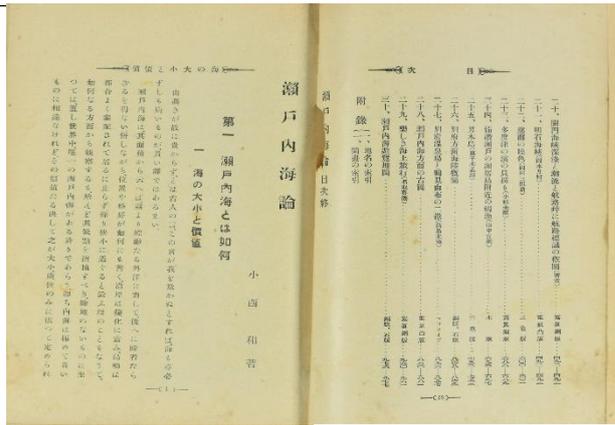
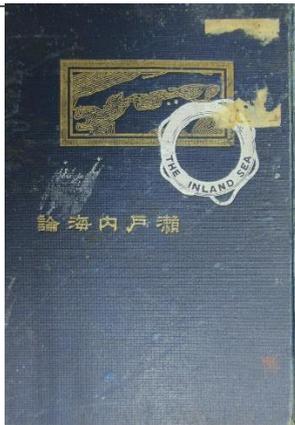
香川県では今年度「瀬戸内海国立公園指定90周年記念事業」として様々なイベントを行っています。本展示もその一つであり、かつ「香川県立文書館開館30周年記念事業」としても位置づけて開催します。さらに本展示は、さぬき市公文書館との共催展示としており、さぬき市公文書館で開催（9月9日（月）～10月18日（金））の企画展「瀬戸内海国立公園の父 小西和」から展示資料の一部をお借りし当館資料と共に展示します。

小西和は明治6年（1873年）寒川郡長尾名村（現在のさぬき市）に生まれました。瀬戸内海を調査研究し、明治44年に『瀬戸内海論』を発表します。明治45年には衆議院議員となり瀬戸内海国立公園の指定に尽力し、のちに「瀬戸内海国立公園の父」と呼ばれるようになりました。若き頃には、札幌農学校（現在の北海道大学）に進学したことをきっかけに、北海道の開拓に情熱を注ぎ、小西農場を開き、香川県からの移住者を迎え入れました。残念ながら農場の経営はうまくいかなくなり、北海道を去ることになりました。現在、北海道岩見沢市栗沢町の小西和が開設した小西農場があったところは小西という地区となっています。

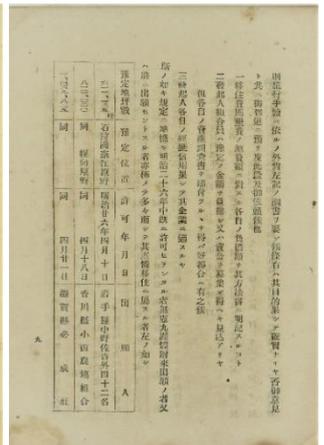
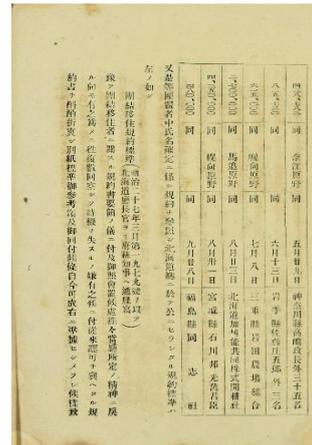
香川県から北海道へは、明治以降昭和の戦後に到るまで農業開拓による移住がありました。本展示においては、小西和の功績を紹介するとともに、北海道に今も残る香川県ゆかりの地などを紹介し、瀬戸内海を通る北前船によって往来のあった北海道と香川県のつながりを紹介しています。

- 1 開催期間：10月29日（火）～12月15日（日）
- 2 開館時間：9：00～17：00
- 3 休館日：毎週月曜日、祝日、11月5日（火）、
11月26日（火）～12月1日（日） <資料整理期間のため休館>
- 4 会場：香川県立文書館1階展示室（高松市林町2217-19）
- 5 観覧料：無料
- 6 展示資料数：35件（おもな展示資料：裏面）

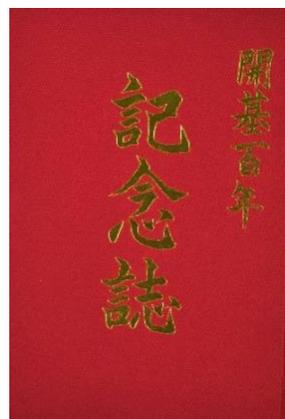
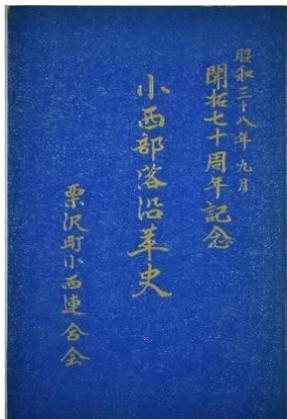




小西和の著書『瀬戸内海論』
明治44年(1911)12月刊行



北海道移住の栞 第壹編
明治27年(1894)
「香川県小西農場組合」とある。



開拓七十周年記念
小西部落沿革史
昭和38年(1963)

小西開基百年記念誌
平成5年(1993)

小西 和 こにし かなう



昭和3年叙勲受章(55歳)以後撮影写真

明治6(1873)年寒川郡長尾名村(現:さぬき市)で生まれました。幼名を和太郎といました。15歳で愛媛県伊予尋常中学校(現:松山東高校)に入学。16歳岡山尋常中学校(現:朝日高校)に転校。18歳札幌農学校(現:北海道大学)予科入学。21歳札幌農学校を退学し小西農場に専念。23歳名前を「和(かなう)」と改名。26歳小西農場の経営が破綻。上京する。28歳東京市役所で勤務。30歳東京朝日新聞社入社。31歳日露戦争の従軍記者として満州へ渡る。帰国後慰労休暇と特別賞与を受け瀬戸内海の研究に没頭する。38歳『瀬戸内海論』を刊行。39歳から63歳まで衆議院議員に7回当選。6回目の当選期間中の昭和5(1931)年。国立公園法が制定される。昭和9年3月に瀬戸内海が国立公園の第1号として雲仙、霧島とともに指定を受ける。昭和12(1937)年64歳で国会議員を引退。昭和22(1947)年74歳の生涯をとじた。